

## TALK OF KOBE

街のおしやべりへ1

え・榎 忠



## 橋

の下のルンペン、とは昔の話。昨年秋頃からフラワールードに起居する話題の同伴ルンペンあり。

六甲おろしにもめげず健在。年の頃は五〇歳位か？ 二人とも同じように顔がひからび同じ目をして。

はじめ、花時計向い三和銀行の入口、石段のぼった台の上を食堂に、ガス灯に似た二灯の明かりに照らされて、弁当を食べたり、炊事したり。味の素も持っているその後北風を避けて、国際会館アーケード閉店後のシャッター前が寝所。重ねの厚着に背をここめ、無言でゆっくりと動く様子は鴨井玲描く静止した刻のよう。黒のボストンバッグと夜具の包みが持ち物。夫は大きな黒いガマ口を出して、お金を妻にわたした。妻は寢床の準備を始めた。コンクリートの上にラクダの毛布一枚、二枚、三枚。その上にピンクの薄い布団を重ねる。その間夫はまわりをじっと見回す。紙屑一つ落ちていれば、それをじっと見つめてから、ひろい、車道まで捨てに行く。キャラメル一つの包みでも見逃さず、一つ一つひろっては捨てに行く。その内ズボンがずり落ちて、寒風に裸のお尻が顔を出してしまったが、あわてず紙屑ひろい。絶対に一往復で一コしかひろわない。トイレは交差点の曲り角、あと、ひとゆらすでもなく……家路急ぐ人たちに背を向けて、無限に続く時間をおしみなく使う。妻は背の荷をほどくの三〇分費した。

翌晚十時半すぎ、国際会館前、ピンクのふとんの上に

黒いオーバーをのせ、顔にチェックのスカーフをかけ、ひとつのまあるいふくらみになっていた。ピンクの布団の裾から黒い足袋がちらりとのぞいていた。

ハの字ヒゲの画家風ルンペン、昔ながらの和服じいさん、ブラウスを前後反対に着たり、帽子をヨコチョにかぶったり、どこか神戸的(?)センスの女性ルンペン――



フラワールード 静止の刻

脱マイホームをはかる三宮住人。

## 世

の中、おてんとうさまは東から上り西へ沈む。窓は西面のみ、全面反射率の高い総ガラス張り、十二階建ての明治生命ビル、大丸方面から歩いて来ると、バーンの東の空にひびえる。夕刻。ね、夕焼け映ってきれいヨ！”なんて……ウマイですねえ。フラワーロード

## 絶

の兵庫トヨタ、北野の山並さえぎって建造中の日本生命ビル、最近大きなビルが神戸の街にも多くなった。対に若者の味方と自認している人、ギョーザを食べに行こう、高架北道路、サンセット・ストリートに「珉々」と学生ギョーザ「赤万」支店が隣り合わせに並んでいる。ただし、メニューはギョーザ、ビール、冷や酒のみ。

## 高

速神戸線高架下の商店街歩道に、最近各種の木がずらりと植えられ、緑濃く賑やかになった。何の木かなとよく見ると、ラカン楨 ¥45,000、黒松 ¥5,500、格南天 ¥450……、値段もついていた。

## さ

んちかタウンとさんブラザ地下をつなぐ連絡通路が完成。「きれいになった」「大阪的で嫌い」と世評様々だが、通路両側のウインドー、その店のセンスが一目でわかる。「前はガラガラだったのに、この頃は昼飯食べに行っても、満員でねえ」とは、さんブラザ階上に勤めるサラリーマン。

連絡通路で、女の子足をそろえて、それを男の子が手を引っぱってすべって行った。靴の皮底のちびた人は買い替える前にここへ来よう。少しぐらい童心にかえられるヨ。少し水をまいて皆ですべろう。

## ア

ミー・ルックに続いてラブ・ピース、神戸の街にも氾濫、バッチを服やかばんにつけるのから、ハンカチ、筆箱、ノート、下敷、袋、食器、まり、紙ばさみ、くし……物みな全て笑っている。どちらにも反戦から生まれた流行。



山陽新幹線。神戸で顔を出すのはホームの端から端までの間。



# ple's Page

★岡田淳さんの自費出版作第3弾  
『個人的ピラミッドへの挑戦』完成

どこまでも地平線が続く画面にボツンと男がひとり現われて、だまっで石を押している。そんなストーリーで始まるこの絵本。本誌の連載マンガ「マリオネット」も終って新企画にとりくんでいる岡田淳さんが、12月の下旬、「星どろぼう」から4年目に自費出版の「個人的ピラミッドへの挑戦」という絵本を完成させた。

ピラミッドというのは王様が自分の象徴のために沢山の奴隷を使ってつくりあげるもの。それを自分の手で自分のピラミッドを作るといふこと。もしかしたら途中で死ぬかもしれない。しかし、その作りあげる



★ファニー

★ベニヤ

★象や鳥や口びるや足やアップルやカンガルーやいろんなパッチを春のベストやかわいいコートに付けて楽しんでみては？

★ファミリア



橋本さんの作品の前で左・白井さん右・橋本さん

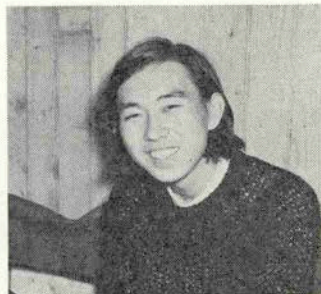
パッチのいろいろ

ギャラリ

★13人展のなかから

ギャラリ一錦で12月5日まで開かれていた13人展のなかで、ある芸術家の死と題して、人間の下半身が血にまみれて置いてある作品を造った橋本清考さんと一昼夜の時計の音と苦痛の叫び声を記録した白井あきおさんの作品が目をつけた。入ったとたんに一番奥の黒ワタのガクブチの前でご焼香をと言われたグループ展。

## TOPICS



週刊「月光仮面」編集者  
村上知彦〈20〉

黒いコートの衿になにやらパッチワークをほどこした姿で、足音をしのばせるようにゆっくり歩くのが彼の癖らしい。

関西学院大学2年生、夏の終わりに少女のごとき長い黒髪をパッサリ切り落した。週刊月光仮面に登場するGYA、大学で一番髪の長いヤツを探索せ」という言葉も通じなくなった訳である。

ワラ版紙3枚程、ガリ版刷りの手作りミニコミ誌。'70年の12月13日創刊。東京の月光仮面（黒井孝人氏）が10日程前にでき、それに負けてなるものかと始めたらしい△元祖

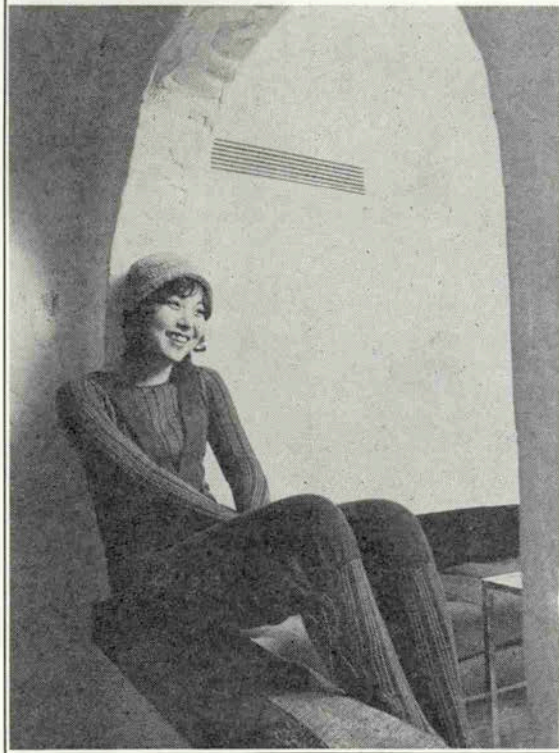
月光仮面は去年の一月につぶれるVそれまでは、『落書き反戦』を名乗っていて、おもにトイレのなかに落書きをしていたとか。その痕跡は欄外の走りかきに認められる。

月光仮面や、谷岡ヤスジのマンガあり、ナイーブなエッセイあり、むづかしい社会論あり、のってしまった走りがあり、雑然と大学の生活を書きつづけている感なきにしもあらず。去年の夏には東京の読者を一人づつ訪問して、またまたファンが増えた。最近、全国月光仮面共闘結成宣言をミニコミ誌ジャム&バターの誌上で行った。

## DREAMER



前岡治美さん(ニットデザイナー)  
デリケートなセンスで大胆な  
デザインのニット作品をつく  
るジミーは目のきれいな人。  
黒白のアトリエはちいちゃく  
て3人居ると満員。お金を持  
たせると一銭残らず使ってし  
まう経済観念0の彼女。ニッ  
トのオーダーもやってくれる  
TEL 521-7252



# Green Ap

という幻想に向かっている。その手  
ざわりみたいなものを表わしたい。  
絵本中、他の男が一人の男と同じよ  
うに何かを押しているのも形は違うけ  
れど、やっぱりピラミッドに向かっ  
ているんですよ、と岡田淳君は一例  
をとってこの絵本の内容を説明して  
くれた。この絵本をつくるのに経済  
的なこともあったけれど最初の案か  
ら2年もかかってしまったので、  
次はちょっと軽いものを作りたいと  
のこと。JUN君ファンの方ぜひ買  
うべし!

お求めは神戸っ子編集室/TEL  
(221)7037/またはKOB  
E BOOKSでどうぞ。A4版黒一色  
刷り。定価五〇〇円、一〇〇〇部限定



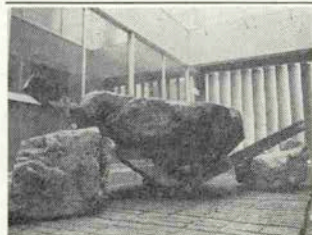
★K.K. ワールド



★ブティック  
アルフィ



★三 愛



神大のオブジェ

### ★植松奎二個展

11月17日〜29日、大阪のギャラ  
ーモリスフォーラムで植松奎二さん  
の個展が開かれた。  
神戸大学教養学部の一隅に置かれ  
るオブジェの出来あがる過程を写  
真で表わしたものの。  
石器時代の幕ドルメンに魅せられ  
た植松さんの空間への挑戦は次  
々と展開していている。



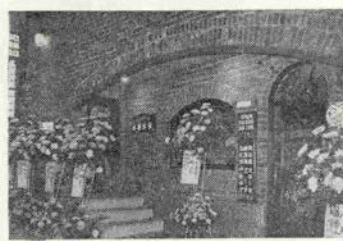
# ぴっと・いん



## ★仏蘭西屋、和蘭陀屋開店

西洋舶来ムードを創るのがお得意のエドワーズ商事が、十二月一日、生田新道全但三宮営業所東隣りの英国屋山側に、洋風割烹「和蘭陀屋」(賃三二一〇二二三〇)を一階に、二階三階は、洋酒肆「仏蘭西屋」(賃三二一〇二六〇)を開店。「和蘭陀屋」は長崎の和蘭陀屋敷風で、南蛮画や、明治時代の大私服や時計が飾られた異国情緒たっぷりの店内。明治風ステッキ(八百円)南蛮風スリーブ(三百円)に白鶴(三百円)の生一本、天沼ビザゲ(三百

レンガがシックな仏蘭西屋と和蘭陀屋



円) オールドウイスキーW

(六百円)等といった値段。二階はスタンド、三階はクラブの「仏蘭西屋」は、スコッチウイスキー(千五百円)ブランドイ(千五百円)が小びんででてる。クラブには仏蘭西の泰西名画などがかかってシックでゴージャスな雰囲気。英国屋とならんで舶来横丁の楽しさが出てきたようだ。

### ★安らぎの灯を

若い人達に人気のあるスネカジリッ子の姉妹店《点燈屋》が、十一月二十日、生田新道金馬車の東の小路を北に入った、れいんぼうビル(地下(賃)078(331)(0393)にオープン。

《点燈屋》は、瓦斯灯に灯を点して廻る人のことで昔懐し瓦斯灯(元京都・日本銀行のもの)が店内にシンボリックにかかっている。

ビール(二五〇円)フィーズ類(四〇〇円より)オールド(四〇〇円)

煮込スープパン付、鍋やき



ガス灯が楽しい点燈屋

うどん、ぞう水、おむすび赤だし付がいづれも五百円サラリーマンでもヤングマンでもカッコよく楽しめる★地中海風の花屋敷

フラワールードのムーディな喫茶店だった「花屋敷」(二五一二二〇九)が、

白い館に衣がえ、ファッショナブルなブレイを楽しむ店になった。強烈なロックリズムにゴーゴーを踊りミディのチャーミングなウエイトレスがサービスしてくれる。十二時から七時三十分までティータム(コーヒー・紅茶・コーラ各二〇〇円)午後八時から午前二時まではドリンクタイム(チャージ三百円、水割オールド五〇〇円、ビール三〇〇円)でバンド演奏がはじまる。



花屋敷

## ●神戸うまいもと ドリンキング

レストラン 那寿

トアロード高架少し上る  
TEL 391・1873

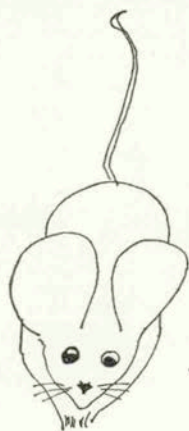
おしゃれなエトランゼが通うトアロードのレストラン那寿は、一階はハイセンスな喫茶店。回り階段を降りると暖かい雰囲気のレストラン。フランス料理の舌ヒラメのボ

### ▲那須の店内



ンファミ(700円)ビールフロマージュ(900円)などがお得意料理。ワインはシャトーマルゴの1953年ものがある。

昼食事にはAランチ(260円)とBランチ(400円)が好評。ちよつとおしゃれな夜に彼と二人でぜひどうぞ。



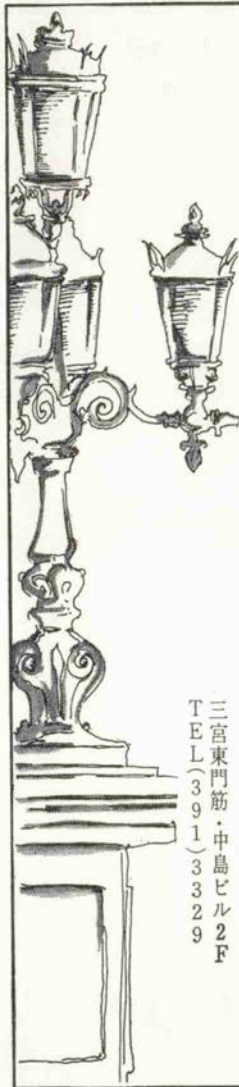
あけまして  
おめでとう  
ございます

SNACK

**jun**

神戸市生田区中山手Ⅰ丁目91-73

TEL 331-2361



あけまして おめでとう ございます

旧年中はお引立てありがとうございました。

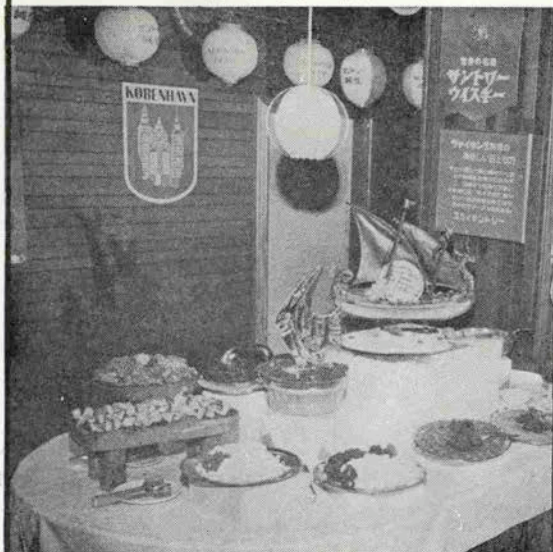
新しい年も、心に灯りをともすような暖かい店づくりをと  
ねがっています。相も変わりませすご愛顧くださいませ。

クラブ・ガーデニア

三宮東門筋・中島ビル2F  
TEL (391) 3329



## 72 謹 賀 新 年



### 〈北欧ヴァイキング料理〉

2000円 〈税込み〉

飲みほうだい (サントリー純生ビール) + 食べほうだい  
クラウン・コーラ

一品料理、日本酒も準備いたしております  
同窓会など各種パーティにご利用ください



なごやかなムード

すばらしい眺望！

# スカイサントリー

三宮交通センタービル 9F TEL (391) 3705~6



アサヒビール 特約代理店

## 謹 賀 新 年 1972

酒類調味食品問屋

乾 神戶酒類販売株式会社

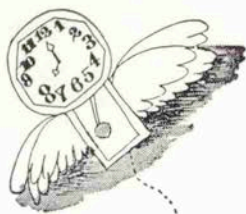
本店・生田区中山手通 1 丁目 76

TEL (078) 321-0201 (代表)

支店・西宮・垂水・兵庫

● お酒の殿堂

神戸百店会  
だより



★中川衣裳店新装オープン

花嫁衣裳のことならなんでもという中川衣裳店のセンター街本店が十一月二日、華麗な姿でお目見得した。

一階はモーニング、留袖など冠婚葬祭の衣裳がそろい、二階は花嫁の打掛やお



花嫁姿のウインドー

振袖が。三階はお色直しの洋装サロンでそれぞれおもむきをかえてたつぷりと貸衣裳がそろっている。

また新春の花嫁衣裳展示会が、一月九日にニューポートホテルで、二月六日にオリエンタルホテルで開かれるので、春に挙式なさるレディはお見のがしなく。

★恒例のラウンドシヨップ

クリスマスバザール開催  
12月・1日2日と明治生命ビル12階ホールで今年も

ラウンドシヨップ・クリスマスバザールが行なわれ、

ヨシオカ・シラサ・エスター・ニュートン・みよしや・オカダ・元町バザール・タジマ



にぎやかなラウンドシヨップバザール

渡辺の各店のお得意さんを集めてのこの催しもの、今年はずいぶんお休み。2日間で約一、三〇〇人が押しかけ、盛況だった。来年の春のバザールをまたお楽しみに……。

★セリザワ

ハイファッションバザール冬の足音とともに開かれたセリザワの第2回ハイファッションバザール。明治生命ビル12階ホールで11月23・24日と行なわれまして。冬のコート・ワンピース

スなどがずらりと並びハモンドミュージックの軽快な流れのフロアで、舟木加代・岡田由利・松村佐和子さんの3人のモデル嬢が優雅にハイファッションのごひろう。またお客さんの注文に応じて服を試着してみせたり、パリのサロン風のバザール風景でした。

★和風レストラン

花くまがオープン

白い障子に望月美佐さんの「花くま」の字が新鮮な印象の「花くま」が、11月の末日オープンした。永い間閉めていた古紋を赤いじやうたんとモダンな椅子に衣がえして、かわいいジユ



ゆっくりと落着いて食事を

ンコちゃんがおしゃくしてくる。ゆったりしたカウソーター式のスペースで心を落ちつけて、食事できる店である。メニューは、しゃぶしゃぶ2000円、天ぷら定食800円、おでん・湯どうふ300円。和食が好きな方のデートコースにぴったりです。

●シヨップトビックス

★12月1日よりUCC上島珈琲本

社が久留米営業所を開設しました

久留米市通町四丁目一〇番地T

EL〇九四二二〇五五六です。

★ネクタイの元町バザールがJ・コ

ンフォート「英国」のネクタイを

新しく入荷しました。総うらネク

タイで絹でも新しい加工をされた

素材をつかってあり、とても締め

やすいのが特徴。ネクタイの柄も

中柄でとてもシックです。

★船来服飾雑貨のエスター・ニ

ュートン(アロード)にドライバ

向けの煙草ケースがあります。裏

に磁石がくっついてて金属面に

ビタツとくっつく仕掛。その反対

側には温度計もついています。赤

と黒の皮製があつてイタリア製

¥2400。

★婦人・紳士服飾セリザワが大

阪ミナミ地下街・虹の街にオープ

ン。ゆったりしたスペースで落着

いた店です。TEL06・213

・6165又、心斎橋バルコにも

オープンしました。TEL06・

245・1465。

★婦人服飾のベニヤが大坂ミナ

ミ地下街・虹の街にあなただけの

白いおへやを創りました。ヨーロ

パ調のブティックは、アトリ

エマの、スウィーツなどちよつ

び大人のムードの商品を揃えていま

す。

TEL06・2113・6128

★ボーンビル写真室では、29・30

日はお休みですが、お正月の3日

間に営業。ふりそで姿やご家族の

お正月写真を写してはいかがでし

ょう。費用は6000円からです

★さくらパレロワイヤールの新春バ

ザール・ゲンセルは一月十八日に、ニ

ューポートホテルで行われます。

船来雑貨 インテリアが半額に近

いとか。



# ポケットジャーナル



## ★神戸まつりの歌とシンボルマーク決まる

かねて公募中の神戸まつりのうた(歌詞)とシンボルマークが決った。

シンボルマーク七五九点音頭九八点、ヤングむけ歌詞一四一点の応募の中から、シンボルマークは芦屋市の寺戸千賀子さん(20才学生)の作品が採用と決まり、デザイナーの石村正太郎氏の手によって補作されたものが今年の神戸まつりから使われることになった。

「神戸まつり音頭」は垂水区の井上美恵子さん(23才)の作に、「ヤングむけ歌詞」新しく決ったシンボルマーク



は東灘区の安藤勝之さん(34才)の作に決まり、前者は中村茂隆氏(神戸大助教授、後者は小曾根実氏(ハモンド奏者)によって作曲され、レコードになる。

今年の神戸まつりは5月20、21日の両日にわたっておこなわれるが、これらの市民の手によってつくられたマークとうたが、新しい神戸のまつりに色どりをそえることになった。

## ★浩宮さま、神戸を初訪問

岡山・兵庫両県を社会見学で旅行中の浩宮さまが十一月九日、明石天文科学博物館を見学の後神戸に立寄られた。九日の夜は六甲オリエンタルホテルに泊られ、十日朝から六甲高山植物園を見学された後、日本一長い六甲有馬ロープウェイから紅葉の美しい六甲山のながめを楽しまれた。その後、摩耶第四埠頭では



神戸港を見学中の浩宮さまと宮崎市長

ガントリークレーンがコンテナを運ぶ操作を熱心にご覧になったり、市港務艇「おわだ」で神戸港を見学された。三宮駅ではつめかけた八百人のお見送りの人がきに手を振り、軽く会釈されて拍手にこたえられ、Oしたちの間からも「まあ、かわいいわ」という声があがっていた。

## ★兵庫県知事一周年を迎えた坂井さん

金井県政のあとを受けて坂井知事がフレッシュ登場をして一年。「人間ルネッサンス」を唱えて「青年の船」や「兵庫県文化祭」ち



挨拶をする坂井県知事

## 誕生日 ありがとう 運動



### 第五回献金使途決定

いつもみなさんからご協力いただいている献金の使途を、運営委員会(本部ボランティア、各友の会代表、学識経験者で構成)で次のように決定しました。

①総額、百七十万円(今まで四回分の累計六百三十万回)

②第五回誕生日ありがとう運動賞………三十万回。

日本精神薄弱者愛護協会を通じて、全国の精神薄弱施設で永年勤続し、陸の力となって献身のこどものために働いてこられた職員に表彰状と賞金を贈ります。

③地域社会啓蒙活動資金……三十万回。全国各地で、精神薄弱問題の啓蒙をより効果的に行なうために、各友の会などの活動を強化助成する資金です。

④広報啓蒙資金………九十万回。本運動の目的である精神薄弱問題の啓蒙活動を推進する資金です。運動のしおりやビラの費用、啓蒙行事の費用など(季刊五万部発行)です。

⑤事務所運営資金……二十万回。本運動の事務所運営資金年間七十五万回の中、二十万回を献金から補助します。

上記のとおり報告します。

誕生日ありがとう運動本部  
神戸市合資区御幸通八の九の一  
神戸国際会館 一階郵便局前  
TEL (二五) 八六一

内線二五八

びつ子ブール」が、県民小劇場など心ゆたかな人づくり等この一年のガムシヤラな実行力は県民の注目するところ。

十一月十五日一周年にあつたの、坂井知事を励ます会がオリエンタルホテルで開かれた。四〇〇人に近い人々が集まり、坂井さんの誠実な人柄を県政に生かしてほしいと励ました。「超党派で兵庫県民のためにガンバリタイ」と坂井さんも意欲充分だった。

### ★売上げバツゲン

若手経済人の油絵展

十一月十二日から一週間三宮そごう六階美術画廊で若手経済人の勉強会である「七誠会」が、日頃の精進ぶりを披露する「油絵展」を開催した。

風景や静物、裸婦像、はては未来都市まで画題も多彩。参加メンバーは、砂野耕一、江原慶彦、小倉宗夫、木下健、田崎俊作、樽本久、南部圭三、橋本一豊、



そごう画廊で七誠会のメンバー

藤堂高弘さんたち常連に、ゲストとして飯尾卓造、今津成生、河合義雄、竹内禰之輔、山田芳信、山本喜朗さん達も作品参加。二紀会の野口みゆき、木内よし子さんもゲスト出品。全作品が売れてしまつて、神戸JCを通じて社会福祉事業に二十五万円を寄附したというからサウスガ。それでも

つて七誠会の作品に夜のサロンでお目にかかることがあいい。なかにはこれで四十一のヤクばらいをしたというご仁もあった。

### ★半どん表彰パーティ



半どんの会表彰パーティ風景

文化団体「半どんの会」が十二月三日夜大丸神戸店大食堂で恒例の文化賞表彰式と会員の県文化賞のお祝いが開かれた。

また、兵庫県社会福祉協議会会長、その他社会福祉関係の委員長として献身された朝倉斯道さんの感謝の会も開かれて、ジャーナリストとして、批評家として、

社会福祉家としてのヒューマンな歩みに多大な拍手が贈られた。

今年の半どん文化賞は（現代芸術賞）田中徳喜・天宅祥祐、堀内初太郎、黒部亨さん（文化功労賞）は木村真康さん（県民感謝賞）は、荒尾親成、高橋秀吉さんへ受与され、四〇〇人近い出席者にお祝いを受けた。

### ★モダンで自由な

「湯山昭作品研究の会」



右端が湯山さん。会場風景

子供の曲や、合唱曲でモダンな自由大胆な作曲を続ける湯山昭さんの作品研究の会が、十一月二十一日ラジオ関西C.R.ホールで、東京から湯山さんを招いて開かれた。

主催はアカデミー神戸ゆめのサロンピアノ教室（柴田多嘉子）で、ピアノ曲は子供たちが、合唱は湯山さん自らの指揮でコロ・ポルテニオが「物語」を合唱し、最後は、子供達の質問に、湯山さんが答えるという音楽談話。童謡「あめふりくまの子」を歌唱指導し

## 美術ガイド



### ★兵庫県立近代美術館

ルノワール展 1/6 2/6

★そごう6階画廊

佐藤光園美人画展 1/4 1/12

第五回一松会新春名流書道展 1/14 1/19

第六回グループ彩炎作陶展 1/21 1/26

### ★安田画廊

鈴木照三イラスト展

梅田佳子個展 1/5 1/9

塩川直子個展 1/11 1/16

### ★新光ギャラリー

阪神美術作家協会会員展

常設展 1/6 1/14

山手短大美術部クラブ展 1/15 1/21

### ★KCCギャラリー

児童絵画教室初夢展 1/22 1/28

第十三回名士賞状展 1/4 1/7

芸青展 1/8 1/14

芦屋大学美術部展 1/15 1/21

★風月堂ルナ・ビコティカ 1/22 1/28

望月美佐個展 3月末まで

### ★さんちかギャラリー

神戸観光写真展 1/2 1/5

紅慶会書道展 1/13 1/17

神戸市立定時制高校卒業作品展 1/20 1/25

### ★三菱ホームギャラリー

（さんちかタウン）

土居始彦神戸スケッチ展

大野トキ子造花展 1/13 1/18

白子恵美紙人形展 1/20 1/25

赤木麻夫「グワッシュ」

1/27 2/1



て会場全員が合唱するとい  
う楽しい雰囲気。ピアノの  
おさらへ会から一歩前進し  
たユニークなこの会は、子  
供達にとっても印象深いも  
のであったろう。

### ★小坂務作曲の

「小さなクリスマス」を  
新谷のり子が唄う

クリスマスは日本の歌で  
祝おうというわけで、和製  
クリスマスソングが生ま  
れ、好評を得ている。

新谷のり子が吹き込んだ  
「小さなクリスマス」がそ  
れで、ことしを初年度にし  
て五カ年計画でキャンペー  
ンに取り込み、洋盤の「ホ  
ワイト・クリスマス」「ジ  
ングルベル」をしのごとく  
という構想のもの。

新谷のり子は「フランシ

ス」の場合には「で大ヒット  
を飛ばし、その後は労音を  
中心にした舞台で活躍して  
いた歌手。約一年ぶりにマ  
スコミにカムバックしただ  
けに彼女も大張り切り、  
レコードはA面がこの  
「小さなクリスマス」で、作



小坂務さん

詞は多木比佐夫氏(豊中市)  
作曲は小坂務氏(西宮市)。  
小坂務氏はきれいなメロデ  
ィーの作曲家として注目さ  
れてはいたもののマスコミ  
を舞台にするのははじめ  
て。

B面は、岩谷時子作詞、  
いずみ・たく作曲の超大物  
コンビで、「小さなクリス  
マス」のよさを認めて、御  
大いずみ・たく氏が自らB  
面に下ったといういわくつ  
きのもの。すでにラジオ関  
西で数十回、11PMで十数  
回放送されている。

日本人に日本のクリスマ  
ス・ソングを——というこ  
の珍しい企画、どうやら静  
かなブームを起こし、年末  
には大当りをとりそうな気  
配が十分。

また小坂さんは十二月十  
三日「ニューソニックジャ  
ズオーケストラ・リサイタ  
ル」を開き、ミュージカル  
「明日からの幸せ」を作曲、  
神戸っ子の麻鳥千穂が主演  
して楽しい舞台をくりひろ  
げた。

なく、少なくとも各近畿  
地域でかなり活潑に進め  
られようとしているのは  
事実である。

ただ、どこの都市も残  
念ながら行政、先行型の  
施策が多くて、ほとんど  
が文化行政のあるべき姿  
が見失われているように  
思われる。

せめて、兵庫県なり神  
戸市は都市の文化環境を  
詳細に検討して長期にわ  
たるプログラムを編成し  
て、市民先行の行政、文  
化行政を進めてもらいた  
いものだ。

(Y)

## 花時計



いよいよ

文化の年に

一九七一年十二月三十  
一日の夜、十二時。神戸  
港に停泊中の大小の船舶  
がいつせいに汽笛を鳴ら  
す。一九七二年の夜明け  
である。

## KOBE POST

★鶴居幸子さんが、十一月二十七  
日、大阪北に未来を先どりして誕  
生した新しいすまい「メタボ飯急」  
の1階に、バザール「化身」を開  
店されました。シャボンからドレ  
スまで、文化の中心地から、世界  
の果までの品々を揃えてヨーコ・  
ファンタスティックが花開きま  
す。住所は大阪市北区鶴野町四八  
メタボ飯急1F電話三七二一八八  
九です。

★美術評論家の赤根和生さんが、  
そのほど「ピート・モンドリアン  
その人と芸術」(美術社出版)を  
上梓され、わが国では、はじめて  
発売以来早くも好評と評判が立っ  
ています。十二月十五日には貿易セ  
ンタービル二十四階パークで、出  
版記念会をかねた忘年会が開かれ  
ました。また近々二世誕生とかで  
増々若い赤根さんです。

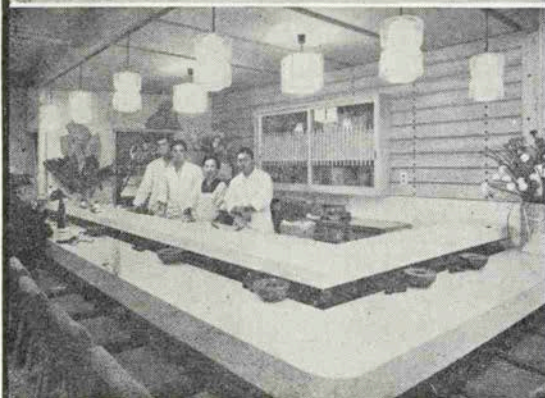
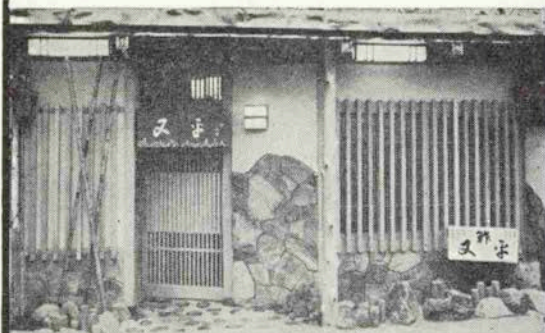
★十二月二日故河上丈太郎追悼七  
周年記念集いが、成田知己、河野  
密氏を招いて河上民雄さんと共に  
丈太郎偲ぶ会が開かれました。

★元町南京町の元祖豚饅頭「老祥  
紀」さんから十一月より、宇治川  
商店街(生田区楠町一丁目二六の  
二〇電話三四一〇四三四)にも新  
しく開店し、伝統六〇年の味をご  
賞味下さいと通知がありました。

★インテリア・フラワリングの長  
浜律子さんが、十二月一日より、  
元町ファーストビル(元町一丁目  
22二つ茶屋西隣電話三三一一七  
二)五階に元町教室をオープンさ  
れました。十四・十五・十六日の  
三日間は、ながはまフラワー作品  
展示会も開かれました。

★ファッションデザイナーの中西  
省吾さんが、十二月三日アロー  
ードに、サロン・デ・モード・ナカ  
ニシを一階にサロンを二階に、三  
四階は工場と自室と中西ビ  
ルを建築。トアロードに新風をそ  
えました。

ゆったりと落ち着いたスペースで  
新しい“味”をご賞味ください。



又平の鰯

神戸三宮生田ノ社ノ西  
電話・三の宮 (331) 0935



おいしさが  
口いっぱい  
ひろがる……  
本場の味



ばた  
なち

- 三宮センター街柳筋店  
TEL 321-3446・331-0572
- 新開地店  
TEL 576-1191
- 平野店（平野市場内）  
TEL 361-0821
- 三宮センター街サンプラザビルB<sub>1</sub>  
TEL 391-3793



□連載小説 21

# キリシタンの墓

小山牧子

え・石阪春生

## 修羅 3

あらすじ 二年前短期大学を卒業した佳は、母蘭子との生活に息づまりを感じ、米国系海運会社のエージェンツに勤めに出ることにした。ある日佳は願成寺の墓地の隅がりで見つけた村重船長と名の老人から、偶然自分の父村林裕作の過去を知る。その父が久しぶりに航海を終えて神戸に帰ってきたが、母蘭子の冷たい態度に佳の心は複雑だった。そんなある日、佳は新聞に蘭子の短歌が載っているのを見つけるが、まさしくそれは裕作の初恋の女性、故由佳子の短歌の盗作であった。

歌誌『せせらぎ』主幹様

突然にこのような匿名のお手紙を差上げます失礼を幾重にもお詫びいたします。私は貴誌とは直接のつながりは無いものでございます。しかしながら、身の内にほとばしる正義感と、ある複雑な、しかも激しい感情につき動かされて、ペンを取ります。いまあなた様にお手紙をしたためますこの私の手を支えておりますのは、私自身ではございません。黒い魔性の力が、私の手を連二無二、動かしているのでございます。ここまで書いたとき、佳の右手は激しく震えた。

——止せ。佳！お前の骨肉ではないか。

胸の洞の奥深くから囁きかけてくる強い声がある。佳は、その声を断ち切るように、強くかぶりを振った。——だって、パパがあんまり可哀そうなんだもの。

涙が佳の両頬に筋を引いて流れた。

居間の絨毯の上にうつ伏した父は、佳の力だけでは動かしようがなかった。蘭子の力を借りようにも、自室に引きとるときに見せた裕作への侮蔑にみちた表情をおもいだすと、頼みに行く勇氣も出ない。で、仕方なく、絨毯の上に広がる汚物を拭き取り、すぐに他愛なく眠り込んでしまったらしい裕作の身体にタオルケットを掛け、佳もまた自室に引きとったのであるが、眠れそうにもなかった。館をとり囲む深い森の静寂が、奇妙なざわめきの波調で佳の耳に伝わり、佳をいらだたせる。眠られぬままに、佳は獐犢な獣に似た心を抱いて部屋の中を歩きまわった。猛々しい心とは対照的に、柔らかな感性の部分は、父が帰館した夜、娘に触れたあの優しい掌の感触をおもいだしていた。あの夜の記憶は、背徳の情念となつて、佳の身体を熱く火照らせたりもするのだ。が、猛々しい心の方は、父への愛が嵩じれば嵩じるほど、それにふさわしい強さで母の蘭子を憎んでいた。この荒れる獣のような苦しい心を、館を囲む深い静まり返った森の奥に追い放してやることはできないか。否である。

——馬鹿らしい。何が伝統に生命を吹き込むんだ。盗作という最も恥ずべき行為さえも、ねじくれた理窟をつけ

て正当化する、ママのぬけぬけとした狡猾さは許せない。パパと同じように、わたしだって絶対に許せないノ  
いつか蘭子に対する憎悪は、佳の胸のうちに一点に凝縮しはじめていた。

——盗人猛々しいにもほどがある。気の弱いパパが悪酔いしてしまふの当りまえだわ。

佳は、父の凛々しかった日々をおもひ返していた。

巨船を港の頑丈な両腕の中にゆだね、ランチボートから若い獣のように敏捷な身のこなしで岸壁に飛びあがり、黒いがつしりとしたシルエットを佳に近すけ頬笑みかける。長い航海を無事に終え、重責を果たした自負にふくらんでいる生気にみちた父。佳は、そこにいつも理想の男を見ていたのではなかったか。が、その父が、なぜあれほど挫けてしまったのだろう。すべての原因は、

蘭子にある。そうだ、蘭子にあるのだ。

すべての原因が母の蘭子にあるという発想が、少し大仰に過ぎると気付いたとしても、佳は今夜、酔いつぶれた父を蘭子が辱しめた、そのことのためだけにでも、父に代つての復讐をおもひ立つたであろう。

散漫と散らばっていた蘭子への憎悪が、尖った結晶体がゆっくりと同じ方向へ施回しはじめ、施回しながら一つの堅い大きな核へと凝縮してゆくあの同じ運動律で、憎悪は復讐という恐ろしい想念へと凝縮してゆくのだ。

窓外では、雨気を含んで垂れ込めていた乳色の大気が、目に見える速さで動いている。乳色の大気もまた、同じ一つの方向を指して渦を作っている。やがて、天を大きく切り裂いて降るかとおもえる驟雨が大地を襲うのだろう。

佳は、再びペンを取って書きはじめた。

ほかではございません。いま歌を詠む人達の話題に登っております村林蘭子の新作についてなのでございます。

あの歌は、ほんの少し言葉のアヤを変えただけの盗作であるということをお知らせ致します。

村林蘭子の作となっており、歌の本当の作者は、古くから歌作に励んでおられます方々の中には記憶しておられる方もあるうかと存じますが、二十五年も以前に世を去った、姓はまだ知る機会を持っていませんが由佳子という名の歌人であります。

由佳子という人は、長く病床にあつて歌作に励んだ人でありましたか、他とは比べようのないほどの拔きんでた才能の持主でありながら、表面に立った活動が好き、作品も古い日記帳の中に埋もれている場合が多いので、村林蘭子という売名乞食のような歌詠みの餌食になったのでしょうか。由佳子は、村林蘭子とは比べようもないほどに心の清らかな、身近にいる人々にも細やかな愛情を注ぐ人であったと、古い記録に残っております。





このように、一人の世に認められた歌人を葬るかも知れぬ重大事実を、匿名という卑劣な方法でばく私の人格への疑問をまずお持ちであらうかと考えますが、いまは私の名を明かすことも、これを書くに至った動機を語ることも致しかねます。しかし、私が村林蘭子ときわめて近い関係にあることは事実です。

ただ一つ、私が自分についていえることは、私が悪を憎んでいるということ、才能のとほしい人間が、世にのさばるのを見かねての行為であるとしておきましようか。念のために申しておきますが、この密訴は決して嫉妬からでたものではありません。従って、私は村林蘭子の歌仲間ではないわけです。

私がお知らせした秘密を裏付けるために、由佳子が残した手記ノートを封入いたします。蘭子が発表した近作と全く同じ歌が、手記の中にちりばめられ、清冽な光を放っており、清冽な目をお止め下さい。



佳をかりたて、このような

手紙を書かせいたのは、佳自身の心ではないようであった。春の初めからの数々の事件が、緊密に結びあい重なりあって、一人の人間を奈落へと追い込んでゆく。佳は、何者か、人間以外の邪悪な力によってその宿命の道を歩かされていたのではなかったか。

——パパ、可哀そうなパパ。いつもママにやり込められてばかりいるパパに、久しぶりで溜飲を下げさせてあげらるわ。

この投書が東京へ送られ、歌誌『せせらぎ』の主幹の目に止まったなら、蘭子はなん等かの制裁を受けるだろう。蘭子が生命より大切に思っている名声を剥ぎ取られる日が、近く来るのだ。

失意の蘭子には、豪華な羽根をむしり取られ震えている孔雀に似た滑稽さがあるだろう。

——そのときはね、パパ。男らしい大様さでママを許してあげなさい。誰にも相手にされなくなったママには、パパの慰めだけが必要になるわ。そうなければきっと、ママは館に閉じ込められ、また以前のように薔薇づくりに励んだり、読書をしたりの日常を取り戻すでしょう。だから、ね。わたしのやり方は少しきかないようだけど、パパとママの関係を逆点させるには、この方法しか無いの。パパの夫復権のためには、荒療治も必要よ。

佳は、匿名投書という形の一枚の書信が、佳たち一家を最も残酷な形で引裂くメスになるうとは、おもってもみなかった。軽卒に、樂觀的に、すべてが佳の企んだ通りに運んでゆくと考え、まだ子供の世界から抜け切れないでいらだっている佳であったが、すべての事件が落着いたあと、錯乱した気持のまま、この投書という行為の背後にひそむ何者かの意志に、なぜと

いう疑問符をたたきつけずにいらなかった。

なぜ、深夜の願成寺へなど行ったのか？なぜ、老人と知り合い、由佳子と父の秘密を知ったのか？なぜ由佳子の手記を読んだのか？あの手記さえ読まずにすませていたら……。が、佳は読んだのだ。いま、何者かに読まされていたのかも知れぬ。それは、誰だ。誰だ！

突然に驟雨がきた。それまで静まり返っていた森や大地がいっせいにざわめき立ち、鎧戸をはずしている窓に、滝のように雨水が流れ落ちた。窓辺に立つと、漆黒の虚空に煎りつけるように激しく雨が鳴っている。やがて、白い尖光が漆黒の虚空を裂き、遠くから雷鳴が響き渡ってきた。

★新しい関西を創造する総合雑誌

# オール関西

〈新年号予告〉

☆グラビア この人この時

扇千景／繁山千作／早川徳次

☆グラビア 関西の科学者

☆特集 大阪を動かす400人

☆連載対談

黒田大阪府知事と小野十三郎

☆1972年の国際政局を語る

宇津宮徳馬

☆商売の最前線

大井肉店

☆特集 1972年の展望を語る

J C 座談会

京のやど 柊家 那光史郎

連載随想 バルト海の娘

鈴江百樹

小説 海の癒

小山牧子

☆オール関西編集部

大阪市北区曾根崎一丁目三〇

八千代会館 3F 06-313-2635・0588

一瞬、光の中に浮きあがる森と空と樹木たち。凝視する佳の目に、森は黒々とうねり、その森を包むように、雲は厚く低く垂れ込めている。風景は、すぐに闇にのまれ、やがて再び白い矢光が闇を裂き、風景を浮きあがらせる。それは、梅雨明けを知らせる雷雨であった。

窓外の風景に、何常目かに光がみちたとき、浮きあがっては消える樹木や森の姿をあきず凝視していた佳は、狂った女の髪の毛を連想させて乱れる樹木の梢を巧みにすり抜けて飛ぶ黒い鳥の姿を見たとおもった。

——あれは、脇坂紫峰の九官鳥！

弔旗の断片のようだった鳥の骸をおもい起しながら慄然とする佳は、右手にしっかりと書きあげたばかりの投書握りしめていた。佳が鳥の姿と見た黒い影は、吹きはじめた風と激しい雨の中にそぐわぬゆっくりとした動きで、佳の視界から消えたのであったが、それはあたかも、佳を手招いているように見えたのである。

どのような罪の意識もなく、佳が放った黒い矢は、適確に中央の短歌界に君臨する歌誌『せせらぎ』の主幹を刺した。すでに初老に近い男であったが、眼光炯々、まだ激しく怒る若い心を持っている主幹は、蘭子の盗作事件を、佳が予想していたよりもはるかに衝動的に受け止

めたのであろう。

佳が投書と由佳子の手記を投函してから一週間が経つか経たぬある日、『せせらぎ』短歌会委員全員の連名になる会からの除名通達が、蘭子あてに届いたのである。

更にそれだけでは心がおさまらなかったのか、主幹は、大新聞の例の蘭子の盗作々品をいれいしく掲載してしまった短歌、宗教の特集ページに三分の一ほどの紙面をさいて、短歌の盗作問題に関するエッセーを発表した。そのエッセーの中では、具体的に名前まであげて戦後、宮廷の歌会で最後の選に残った作品が盗作であったことなど及ぶかぎりに書き、当然、蘭子の事件も大きく取りあげられていたのである。

短歌という文学ジャンルが、年と共に華やかな世の脚光をあびる存在から、第二芸術的な自己充足的な弱い存在にすり落ちてゆくことにいらだち、新しい才能が育たぬことを憤っていた血の熱い主幹の盗作事件を載く筆には、なんと強い侮蔑がこめられていたことか。特に期待をかけていた蘭子に対する裁きはきびしく、蘭子はこの過ちによって、完全に短歌界から抹殺されることになった。

(つづく)



—オリジナル L サイズ—

—革履新発売—

創業明治二十八年

# 履物の山下

古い老舗に新しいセンス

確実正札 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店

神戸三宮センター街 TEL(391)0256



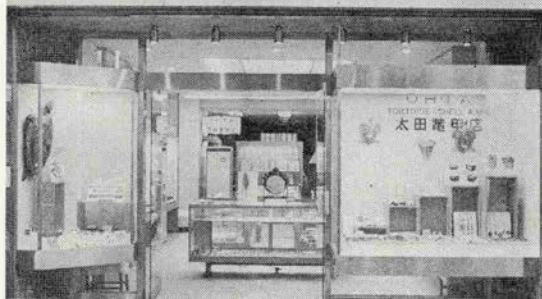
ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

## 三恵洋服店

元町4丁目 TEL(341)7290

あけましておめでとうございます

## 太田鼈甲店



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

## 太田鼈甲店

元町1丁目 TEL(331)6195



Mr. Kent

came to Kobe

流行に左右されない

本来のオシャレ

それがKentです

シックな

スコッチ風の店舗

それがFunakiyaです

Kent shop

## フナキヤ

元町3 TEL(321)0356

でんわ・  
321 321 331 — 三三七七  
— 〇六三四  
— 〇六三五

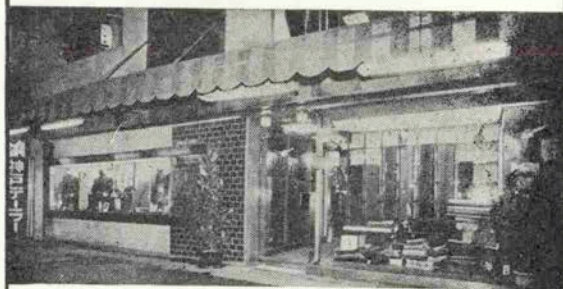
三宮  
ムサシ

やっぱりうまい  
むさしのとんかつ

とんかつ

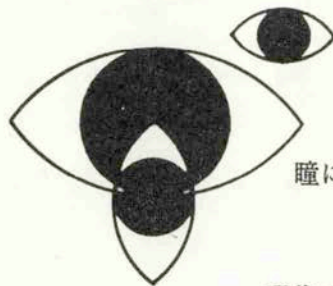
高級紳士服専門店

# 神戸テラー



さんちかメンズタウン TEL (391)0388  
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL (331)2817・3173

あけましておめでとうございます



瞳に美しさを保つ  
スポーツに  
美容に  
現代の科学が生んだ  
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員

## 国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一 (三宮駅前)  
神戸国際会館内 TEL (251)8161・(231)2570



あけましておめでとうございます  
本年もどうぞよろしく



おもちゃの

# カメラ

三宮方面でのお買物は……  
さんちか店 フアミリタウン  
三宮店 センター街大洋劇場東隣  
元町方面でのお買物は……  
元町店 元町通3丁目山側  
パンフ店 元町通1丁目不二家前  
TEL 0768 49045  
TEL 49069  
TEL 0768 49090



賀 正



酒 肆  
*Nouvelle*

ヌベール

神戸市生田区北長狭通2丁目14

Phone 331-9005

本年もどうぞよろしく  
お願いいたします。  
1972年 元旦

おめでとう  
えん



サントノール

トアロード (391) 3822

中谷衣里

よう らく  
スタンド 環 楽

三宮生田新道農業会館南  
神戸ビル地下 TEL331-9613

DRINKING

グラタン小屋

5つの銅貨

神戸市生田区北長狭通2丁目14  
金剛山西入る TEL391-1438



「環楽」(ようらく)とは、凡語で“高貴な人の持物”という意味だそう  
で、このお店がお客の持ちものとして自由に気楽に安らげるようにと  
いうところからきているらしい。

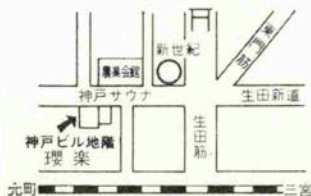
ママの西川陽子さんは、二年前に経験なしで初めてこのお店を持った  
という、すごく家庭的な、日本的な雰囲気のある上品な“おかあさん”で  
ある。ところは、生田新道農業会館南にある神戸ビルの地下。

“おかあさん”に続く女性陣は、由美さん、明美さん、忍さんと三人が  
そろった女の館。

つき出しも女の館らしく、家庭的な味のタニシがでたり、いろいろ手造  
りの品があるので、お酒好きにはありがたい。

ついせんで二周年記念を終えたという、静かだけど、気分の落ちつ  
く「環楽」だ。オールド水割り400円。

営業時間午後5時30分より12時迄



★煉瓦に赤いガラスのローソクが影をつくり、舵輪の上のランプが漁網  
とロープを暖かく照らす。これが贅沢を柔らかく包んだ“5つの銅貨”  
のスペースだ。

鉄枠に自然石が埋まるクールなテーブルだが、膝をつきあわせて、飲も  
うじゃないか、喋らうじゃないか、歌おうじゃないか、と楽しく誘いあ  
える。

スペイン風のランプにマリオンネット、インド製の木製のスプーン&フォ  
ーク、柱にかかる玉窓はオランダ製の装飾、それに鉄製の馬車風ローソ  
ク立て、そのどれもが、漁網とロープと光の中で調和して山小舎にいる  
感じを与える。ホストがギターを弾けば、お客も歌うというなごやかな  
スペースが神戸の夜を一段といるどっている。

グラタンやピザ・スープが美味しい。PM6:00~AM2:00

